

教科書チェック

By原子力学会

新学習指導要領に基づく高等学校教科書の
エネルギー・環境・原子力・放射線関連記述に関する調査と提言
ー地理歴史科・公民科の調査ー

という長〜い名前の文書が2017年6月に原子力学会から公開されました。
要するに原子力学会による高校教科書のチェック最新版、ということで
どんなチェックが入ったか、ちょっとだけ見てみましょう。

教科書本文

山川出版ー日本史A改訂版

原子力発電の安全性に対する信頼がゆらぎ、
再生可能エネルギーの開発・推進に向けて、
エネルギー政策そのものが問い直されている。

学会
コメント

「問い直されている。」に加えて
「エネルギー基本計画」を踏まえた記述が
必要と考えます。
このため、以下のような書きぶりを提案します。

学会
修正例

原子力発電の安全性に対する信頼がゆらぎ、
再生可能エネルギーの開発・推進に向けて、
エネルギー政策そのものが問い直されている。
一方、エネルギーの安定供給が重要であることから
原子力発電をベースロード電源として利用することが
エネルギー基本計画に示されている。

(参考資料①p.31)

私の感想

エネルギー基本計画には一応
「原発依存度を可能な限り低減」とも
書いてあるんですけど・・・

(参考資料②p.22)

参考資料

- ①原子力学会HP 初等・中等教育 教科書調査WGによる「小中高等学校教科書のエネルギー記述に関する提言」
http://www.aesj.net/education/syoto_tyutokyoiku
- ②経産省HP エネルギー基本計画について 「新しい「エネルギー基本計画」が閣議決定されました」
http://www.enecho.meti.go.jp/category/others/basic_plan/

高速増殖炉（中略）

技術的に困難な点が多く、経済的にも割高で、開発を断念している先進国も多い。

”先進”は不要です。先進国の多くが断念しているのに日本は開発を続けようとしているかのような印象を与えます。もともと途上国では高速増殖炉は原子力利用計画の俎上にも上がっていないのですから、ここは簡単に「開発を断念している国も多い。」のほうが適切かと思います。

(参考資料①p.40)

「多くの国が断念しているのに日本は開発を続けようとしている」のは否定しないのね・・・

第一学習－高等学校改訂版政治・経済

日本は国内すべての原発を点検するために停止させたが、その一方で、ベトナムやトルコなどと原子力協定を締結し、原発を輸出する計画を進めている。

このまま読むと、問題のある原子力発電技術を海外に輸出するように読めます。実際には事故を踏まえて安全性を向上した原発を建設することになりますので、誤解を招く表現と思います。

日本は国内すべての原発を停止させ、安全性向上のための対応を行っている。またベトナムやトルコなどと原子力協定を締結し、安全性の向上した原発を輸出する計画を進めている。

(参考資料①p.67)

原子力緊急事態が継続し、メルトダウンした原子炉内がどうなっているかもわからない状態で、どうしてこんなこと言えるんでしょう？

最後に一言

他にも色々なチェックが入っています。かなり地味でほとんど報じられていないと思いますけど、教科書を改訂するたびにこんなチェックが入れば、出版社も気にするでしょう。着実に押さえるべきところは押さえている感じです。対する我々もこういうのにちゃんと反応していかないといけない気がします。